

平成28年度「未来づくり懇談会」議事録（主旨要約）

□日 時	5月24日（火）午後7時～午後8時50分
□会 場	中央公民館
□参加者	町側10人、地区側21人

1. 町民憲章唱和

2. 町長あいさつ

同趣旨のため省略（5月10日（火）宮津公民館参照）

3. 懇談会テーマと質問事項等の主旨要約

①高齢者と地域のつながり

配布資料に基づき民生部長説明。

内容は同主旨のため省略（5月10日（火）宮津公民館参照）

質問（1）65歳以上、75歳以上の人が増えるという話はありませんでしたが、そのことに対する町としての施策が見えません。紹介のあった取り組みは地区がやっていることであり、町としては何をやっているのですか。坂部の友愛サロンは始めてから3年経ちますが、一向に他の地区で始まりません。町は、何もやっていないのではないかと感じます。65歳以上でもスポーツ、仕事、学童の補助活動、サロン、友愛活動をすれば、その方が楽しいので、病院に行かなくなり、医療費の削減もできます。紹介したことについては、地区がやっていることであり、町として、それを増やすのかどうするかの姿勢をはっきりしてほしいと思います。（坂部）

答）町としては、今日紹介をした活動は、各地区で進めてほしいと思っています。現在、行われていない地区でどう始めてもらうか、誰を中心として進めるかなどが決まらず、なかなか踏み出せていないのが現状です。地域で話し合いの場ができれば、町と社会福祉協議会が出向いていきます。とりあえずは、そういう場所を設けてもらうように呼びかけを進めていきます。

活動しているところも継続することに関して、問題があるのではないのでしょうか。後継者不足、担い手作り、世話人が利用者になるなど、そういった活動の継続について地域の話し合いの場があれば、関わりたいと思っています。町として地域と一緒に話合いを進めていきたいと思っています。（民生部長）

部長はサロンなどの話しかしていませんが、町として高齢者の居場所作りとして図書館の整備、ふれあいの森の周辺で始めた元気な家族農園など、高齢者が引きこもらず、社会との関わりを保てるような施策を新たに始めています。もちろんサロンも大切ですが、そればかりでなく、タクシー券の助成や循環バス事業なども高齢者対策の一つとして認識し、継続して行っています。（町長）

要望) 65歳以上の人があるのくらい働いているか、スポーツに関わっているかなど、そういったものが分かる資料がほしいです。そういった人が1%でも増えれば、医療費の抑制につながります。何もやることが無いから病院に行って暇つぶしをする人が多い。そういう人を無くすために、詳しい資料が必要になってきます。今日見た資料にはそういったものがないので、具体的な話できません。もう少し詳しいものを資料として提示してもらわないと中身のある話できません。(坂部)

答) これしか持ち合わせていません。言われたとおりで、仕事をしている人は居場所があります。退職後、居場所がなくなる人がいるのが現実です。高齢者にとっての居場所を作り、生きがいがない方、引きこもりの方を外に出すことが大切です。そういう機会を作るのは大切ですので、地域で話し合いの場があれば、情報提供のため伺います。どんどん協力したいと思っていますのでよろしくお願いします。(民生部長)

提案) 民生委員を2年やると、高齢者に対して自分ができることが少なく、そして高齢者の数が多いのに驚かされます。できる範囲で活動をやっていますが、ボランティアの高齢化は問題です。他の地区でも立ち上げ時のボランティアは多いですが、数がどんどん減って、しりすぼみになっていると聞いています。そのような状況の中で、ぜひ、幼保小中一貫教育の中で、ボランティアの育成に取り組んでほしいと思います。そうすれば自然とボランティアをする子どもが育ってくると思います。熊本地震の風景を見ても、中学生がボランティアとして奮闘しています。きっとそのボランティア精神は小さい頃から養われたものだと思います。子どもの育成には長い時間がかかるため、小さい頃からやるのが1番です。家庭のことを学校がやっている状況もありますので、PTAの充実も含め、全ての人が住みたい、住んで良かったと思う町にしてほしいと願います。(坂部)

答) 幼保小中一貫教育プロジェクトを10年間行っており、ボランティアについては社会教育課と一緒に進めています。図書館のお手伝いなど、ボランティアに子どもが関われる状況を作るようにしています。しかし、その数はまだ少ないのが現状です。これからより充実を図り、子どもたちが大人になったとき、自然と困った人を助けられるようにしていきたいと思っています。(教育長)

要望・提案) 要請が一つあります。今日の未来づくり懇談会は、高齢者問題とゴミ問題という大きな二つのテーマがありますが、内容によっては、町長が将来の長期ビジョンを作る際の参考になると思います。参加する側としてもある程度、勉強して臨みたいと思っていました。この前、そのためにデータをもらいに行ったら、役場に区長の仕事は参加者を10人集めることだと言われました。これは失礼ではないでしょうか。高齢化対策については、事例として地区の対策をある程度話し合っておいてほしいとか、阿久比町のゴミ負担金は多いので、ゴミの量を減らすための対策を話しておいてほしいとか、そういう話が事前にあって良いのではないのでしょうか。広報に不用物の転用についての記事がありましたが、地区によって状況が違います。そういうことがあるから、地域で対策を勉強してからこの会に臨み、中身の濃いディスカッションにしたかったです。

高齢化対策としては、平均年齢としては73歳かもしれないが、健康寿命を延ばすことが一番です。平成25年度、医療関係費42兆円。20兆円は保険、15兆円は国・県費、6兆円が病院で払う自己負担。健康寿命を1年間延ばせば、全体として1兆円削減できるのではないのでしょうか。そのため、元気な家族農園やサークルなどの集まりで体や頭を使い、刺激与えてぼけ防止・認知症対策をするのが大切です。そして、引きこもり、うつになると気力がなくなるので、余り深く考えずに、明日になればいいことあるさ、という気楽な雰囲気を作ることが一番の高齢化対策だと思います。それに加え働く場所があればますますいいが、そう簡単にはいきません。政策協働課が音頭を取って、高齢者が一日のうち、1時間や2時間でも働ける場所を作るように頑張ってもらいたいです。そういう場所があれば新たな活性化、コミュニケーションが生まれる、一連の高齢者対策としても、働くことができる場を作るよう民生部長にも案を作ってほしいです。(坂部)

答) 貴重な意見をありがとうございます。高齢者の生きがいは大切です。未来づくり懇談会で各地区を回って、対策を練っていきたいです。すぐには回答できませんが、戻ってよく考えて進めます。(民生部長)

提案) 先ほど、子ども時代からのボランティア活動の推進や資源ゴミについて話がありました。個人的なことですが、10年前から空き缶のプルトップを集める活動をしています。どうして集めるかというところも車いすがもらえるからです。しかし、15万個ためないとダメだと最近知りました。つい先週の日曜にあったみんなでゴミを拾うゴミゼロは、参加するとそのことで、ボランティア精神というか満足感が起きます。そういったものに子どもも参加すれば、違った感動を受けます。阿久比の人口28,000人。みんながプルトップやペットボトルのキャップを集めれば、一年に車いすが何台もらえるか。2台や3台はもらえるのではないかと思います。とにかく一世帯ごとにみんなが協力して、同じ目標を持ってやることをプルトップでやりたいと思います。東浦町がやっているのか、パチンコ屋がやっているのか分かりませんが、ペットボトルキャップの回収に協力するため東浦町のパチンコ屋へ行っています。家でたまると困るから持って行っています。是非、これを阿久比でやりたいです。私以外にも大半の方がいろいろな所に持っていっていると思います。廃棄しているのはもったいないと思います。(卯之山)

答) ありがとうございます。プルトップで車いすをもらえるとは知らなかったです。さまざまなボランティアが有効なので一度調べます。ありがとうございます。(民生部長)

②ゴミの減量化について

資料に基づき建設経済部長説明。

内容は同主旨のため省略(5月10日(火)宮津公民館参照)。

質問(1)生活ゴミを入れる黄色の袋に樹木の切ったものや木、草を入れて捨てる人がいます。最近、それがものすごく増えています。樹木の切ったものや草を再生利用する方法

を考えれば良いと思います。また、生活ゴミの黄色い袋と廃プラ用の白色の袋があるけど、当番でゴミステーションに行くと、黄色の中にプラゴミがたくさん入っています。黄色と白色の処分費用に差はあるのでしょうか。可燃ゴミの処理費の方が安く、何でも可燃ゴミでどんどん出せよということなら、プラスチックゴミも黄色い袋に入れます。ゴミ袋の値段を上げるという話があったとき思いついたのが、分別する雰囲気を作るために、例えば、黄色のゴミ袋を20円とし、白色のゴミ袋を5円にすれば、みんな分別するようになるのではないかとことです。つまり、袋の値段に差を付ければ、みんな白色のゴミ袋にプラゴミを入れると思います。黄色も白色も結局燃やすのは同じで、値段が一緒だったら、どうして黄色と白色を分けるのでしょうか。(坂部)

答) どちらの袋に入れても、確かに燃やすのは同じですが、生ゴミなど可燃ゴミを入れる黄色い袋は、先ほど言ったように東部知多衛生組合に持っていく運搬費と処分費を払っています。廃プラを入れる白色の袋で回収したゴミは、新日鉄に売っています。そこが処分方法として大きく違います。先ほどの黄色のゴミ袋より白色のゴミ袋を安くという提案は前向きに検討したいと思います。関連して、他の地区で、プラゴミをきれいに洗っているけど、燃やすならそんなことをしなくてもいいじゃないのかという意見がありましたが、汚れ方で値段が違うので、しっかりきれいにして廃プラ用の白色のゴミ袋に出していただきたいです。このことはしっかりとPRし、浸透させないといけないと思います。広報の毎月1日号に去年の6月から一人当たりのゴミの量を掲載しています。同時に減量化、分別の方法も一緒にPRをしています。まだまだ足りないかもしれませんが、PRを積極的にやっていきます。(建設経済部長)

意見) もう一点、可燃ゴミの中に草や木が入っていることが多いし、最近よく目にするようになりました。家庭菜園や菊同好会にとっては、腐葉土を作るのに最適なので、再生利用する形が良いと思います。1カ所に草とか木を捨てる場所を作ってほしいと思います。そうすれば樹木などが肥料になって、ゴミが少しでも減るのではないのでしょうか。これは意見です。(坂部)

質問(2) 部長の説明では、分かりにくいところがあったので教えてください。最初、運搬費で1億1,600万円、処分費で1億2,200万円という話があって、その後、グラム当たりで量が少ない多いという話になりました。ゴミを減らしたいのは分かりますが、話が全体的すぎて、部長さんのように専門家ではない住民にとっては分かりにくいです。例えばゴミ袋を値上げしたいという話がありましたが、値上げが妥当かどうかという話についてはトータルの予算の中で、このゴミの量を処分するとお金がこれだけかかるから、ゴミ袋の値上げが必要。だから、皆さんご協力をということであれば、我々も分かります。

資料を出すときに、町側が説明したいことを私たち庶民にも分かるような形で示してほしいです。例えば、一人当たりのゴミをこれだけ減らすと、収支均衡するから、ゴミ袋を値上げしなくて良い。減らさないと、これだけお金が足りないから、ゴミ袋を値上げするよ。そう言うことがあれば我々も意見を出しやすいです。また、アイデアを出してもそれがどう生かされるのでしょうか、結局は記録だけになってしまう気がします。せっかくこうい

う時間を作ってもらえるのならば、先ほどの坂部区長さんの意見にもありましたが、もう少し具体的にデータを準備していただいて、地区の中で話し合ってから、参加できる形にしてほしいです。町長と部長の話す時間が長く、地区の意見を聞くというよりは、自分たちのPRになっています。時間がもったいないです。来年は、資料を事前に配り、どんな意見を聞いて、何をアウトプットしたいのか住民にも分かるような形にしてもらえると、もっと有効な懇談会になると思います。(卯之山)

答) 部長は地元なので、力が入って時間オーバーしてしまいました。すみません。これからは注意します。ゴミについて、今回伝えたかったことは地区への報奨金についてです。分別を徹底している地区、してない地区があります。植地区の平成27年度は38万円、陽なたの丘地区は15万円です。これを見ると、陽なたの丘地区は分別が徹底していないことが分かります。実際は植地区と同じぐらい報奨金がもらえるはずで、分別すればお金が増える余力あるということです。新しく転居してきた人たちへの話なので、町として報奨金についてのPRが不足しているということです。区長さんをお願いしたいのですが、分別の意識で報奨金に差が出ます。皆さんのところも報奨金が減っているのでもっと分別に力を入れてほしいです。

また、町では一般ゴミに混じっている事業系ゴミを減らしたいと考えています。今日、担当から事業系ゴミを一般ゴミに出している事業所を告訴するという決裁が回ってきました。連絡して今月末でも改善しなければ告訴はやむを得ないという状況です。

アスパの配布も毎年、18,000袋を行っているにもかかわらず、依然としてゴミが多い現状です。アスパ利用をもっと周知していくべきだと考えています。人口減に合わせて、今回東部知多衛生組合の焼却炉が240トンから200トンへ2割小さくなります。阿久比町と大府市は人口の急激な減少がないとされているので、阿久比町がゴミの減量を進めないと他の市町とのバランス関係が崩れてしまいます。数値を見て、ゴミ減量についてよく考えてほしいです。会の進め方については、改善していきます。(町長)

4. 参加者との懇談

《町政全般に関して意見交換》の主旨要約

質問(1) タクシー券助成のほほ笑ましい話です。予算は1,700万円だそうで、私も申請したけど使っていません。卯之山の3人が、福住サロンに行くのにいつも乗り合わせで行きます。そのように使えばタクシー券はかなり有効です。一人一台でなく乗り合わせで使ってもらえるとありがたいです。どこかで良い話として紹介してほしいです。発行されているタクシー券はどれくらいなのか、分かれば教えてください。(卯之山)

答) 平成27年度実績ですが、発行人数は2,202人です。70歳以上の方で43.8%です。使い切る人はほとんどいません。高齢者が外出するきっかけとしては良い事業です。良い話をありがとうございます。(民生部長)

要望) 阿久比町の議員の仕事が、住民から見えません。例えば年度初めに一人ずつ目標設

定して半年ごと、一年ごとに進捗状況を公表したら良いのではないのでしょうか。企業だったら達成率の個人評価は当たり前。町から報酬をもらっている以上そういう仕組みが必要ではないのでしょうか。町会議員に限らず、国会議員にもやってほしいです。(阿久比団地)

答) 議員の活動については、町の全般的な状況を見てもらっています。自分の関心のある分野に対して、専門的な形で行政に対して意見いただいている場合もあります。町民への発表という今回の件は、議長に伝えます。(町長)

意見) 町長さんたちがいつも提供してくれるこのデータは大変良いです。自分で作ろうと思ったけどなかなか難しい。地区ごとの人口比率、男女比率、施設入居者を除いた一般住民だけのデータを整理してみたいです。人口状況がよく分かり、字として助かる。来年は事前にそのようなデータを配り、良い議論ができるようにしてほしいと思います。(卯之山)

告知) J I M Oキャラ総選挙に知多半島で唯一アグピーが参加しております。皆さんにもPC等にて検索していただき投票をお願いします。また、応援もお願いします。

5. 閉会あいさつ

今回はやり方を変えて貴重な意見もいただいております、来年に向けて勉強・検討します。今回のテーマにもありました高齢者と地域のつながりについては、行政と地区の連絡を密にし、今後も福祉の向上に努めてまいります。

以上で、平成28年度未来づくり懇談会を終了します。(副町長)